

指定シール方式実証実験

財政健全化集中取組期間の検討事項として、ごみ処理手数料の見直し協議を進めた結果、「指定ごみ袋方式」から「指定シール方式」へ変更することで、財源確保とCO2排出量削減ができる可能性があるため、指定シール方式導入に向けて、

モデル自治会を選定し、様々なリスク検証を行うため、

収集実証実験を実施する。

「燃やすごみ」、「燃やさないごみ」

指定シール
(袋の大きさ
問わず共通)



透明または
半透明の袋
(最大45ℓ)

自分で用意した透明または半透明の袋
(最大サイズ45ℓ) に指定シールを貼付

※資源ごみは、これまでどおり



それぞれのごみステーションへ

指定
シール

- 1世帯40枚配布
- 「可燃」週2回、「不燃」月1回
- 4～5ヶ月程度を想定
- 指定シールがなくなり次第、実証実験終了、指定ごみ袋方式へ

モデル自治会

村上地域

村上、岩船、瀬波、山辺里、
上海府地区 各1自治会

荒川地域

収集区域3区域 各1自治会

神林地域

収集区域2区域 各1自治会

朝日地域

収集区域3区域 各1自治会

山北地域

収集区域3区域 各1自治会

- モデル自治会は、概ね50～100世帯の自治会の中から、ごみステーションの形態（路上、箱型）などを考慮して、個別に選定します。

【想定されるリスク】

◇市民

- 袋選びに迷う（サイズ、半透明の程度など）
- 袋サイズを問わないため、少量排出への戸惑い
- シールの貼り忘れ

◇収集事業者

- シールの貼付確認の困難さ
- 袋サイズ（大きいもの）の確認
- 指定袋と指定シールの混在

◇行政

- ごみの量が増えるのではないか
- 少量排出者への配慮が必要ではないか
- 不法投棄が増えるのではないか

【今後のスケジュール】

- R7.4～5 各区長会において説明
- R7.5～6 実証実験参加自治会選定
- R7.7～8 参加自治会への説明会開催
- R7.9～ 実証実験開始
- R8.1～2 実証実験終了
- R8.3～4 参加者及び収集事業へアンケート調査実施
- R8.6～ 「指定シール方式」への転換について検証
- R8.8～9 検証結果公表

実証実験用「指定シール」

サイズ A6（はがきサイズ） たて105mm×よこ148mm

色 背景：赤 字：白 ※台紙（裏面）切込みあり

